

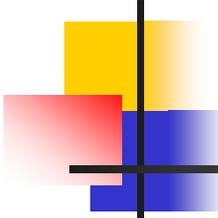
# デザインレビューの勧め

～設計工程の後戻りを最小限に抑えるには～

---

2007/11/14(WED.)

東京計器工業株式会社  
浅井 剛



# プロジェクトマネージャの想い

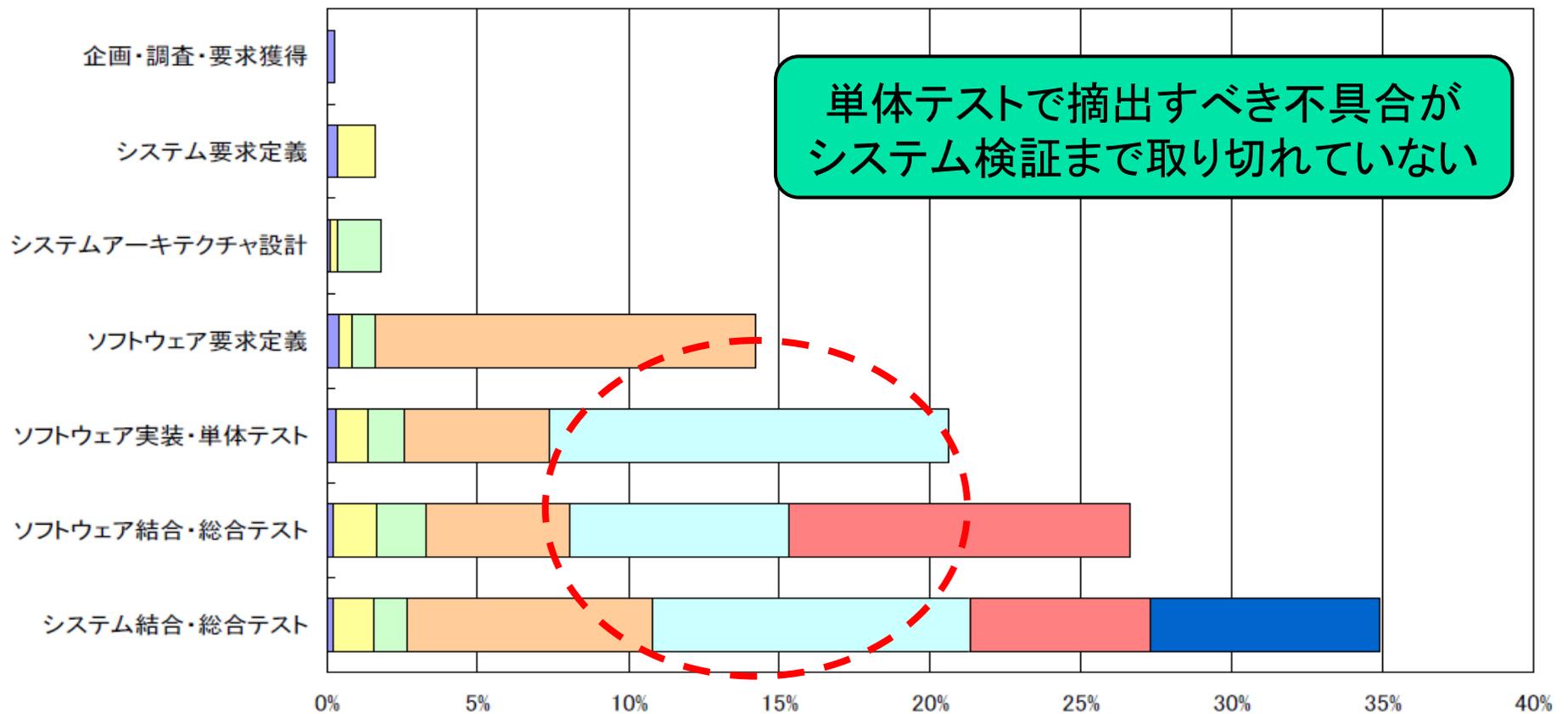
自工程の不具合を以降へ持ち越さず  
後戻りによる工程遅延を最小限に抑えたい

- 設計工程の不具合が持ち越されると
  - 見落としした不具合を仕様として設計が進む
- 検証工程の不具合が持ち越されると
  - 検証範囲が広がるので、不具合箇所の特定に余計な時間がかかる

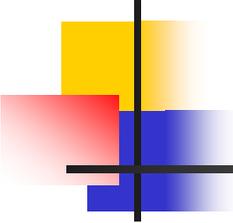
システムの大規模化と共に検証工程が5割以上に

# 不具合発生件数比率

■ 企画・調査・要求獲得   ■ システム要求定義   ■ システムアーキテクチャ設計   ■ ソフトウェア要求定義  
■ ソフトウェア実装・単体テスト   ■ ソフトウェア結合・総合テスト   ■ システム結合・総合テスト



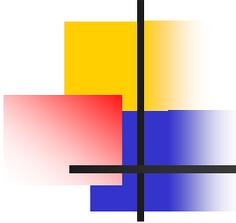
単体テストで摘出すべき不具合が  
システム検証まで取り切れていない



# デザインレビューとは

- 設計不良の6～7割が担当者の単純なミスという経験則
  - 仕様の見落とし、誤理解、図面/文書作成ミス等
- 設計着手、途中、完了の各時点で3回以上実施
- **説明をきっかけに自分の考えを整理でき、自己再チェックがかけられる**
- **複数人によるクロスチェックにより、担当者個人の思い込み(勘違い)による不具合を抽出できる**

作業(設計)対象の大小とは無関係



## デザインレビューを負担にしないために

- レビューのためだけの資料作りは極力しない
  - 内容が大切で体裁は不要
  - 設計書、工程管理表等、開発を進める上で作成したものをそのまま使用する
- レビューのための事前打合せもやらない
  - 討議資料が全てあるかは管理者責任でチェック
  - 具体的な内容は担当者責任でチェック
    - 結果として担当者のスキルアップにつながる

設計過程で作成するドキュメントをうまく使うのがポイント